

3. ブロックテクターの施工手順

(1)～(5)まではグリーンブロックと同じです。

(6) グリーンテクターをアスファルト舗装など平坦な場所で、オス・メスを足で踏みつけるかゴムハンマーでジョイントし、ある程度の大きさのネット状にします。



(注1) グリーンテクターの表裏を間違えないでください(オス部の上からメス部をジョイントすると間違いがありません)。

(注2) テクター同士のジョイントは全てのオス・メスをパチッと音がするまでしっかりとめ込んでください。

(7) ネット状のグリーンテクターをグリーンブロックの上から組み付けます。

(注1) ブロックとテクターはローラーなどを使用して確実に組み付けてください(1枚あたり5ヶ所で固定します)。

(注2) ネット状同士のジョイントはオス部の下に角材やコンパネなどをあてがい、メス部を重ねてジョイントしてください。

4. ホワイトブロックは駐車場の白線(点線)用です。

(注1) グリーンブロックの穴にしっかりとめ込んでください(GB-B、GB-Cは構造上はめ込めない箇所があります)。

(注2) はめ込む間隔は50cmを標準とします。

計算例: 白線5m ÷ 0.5m(標準設置間隔) + 1個(起点) = 11個

5. 芝は生きています。適切な管理をしてください。

(注1) 芝生に十分な日照を与えてください。芝刈りは緻密なターフ形成に有効です。

(注2) 肥料(芝生用配合肥料や複合化成肥料)を年3回以上施してください。

(注3) 経年により、ブロック頭部が露出してきたら目土をしてください。但し、仕上り面はブロック頭部を隠さないようにご注意ください。

(注4) 車の急発進や急停車、無理な切り回し、アイドリングなど芝生をいためることは避けてください。

【お問合せ先】

株式会社 林物産

本社: 0294-35-2345

東京: 03-3553-7545



お問合せ QR コード

グリーンブロック 取扱説明書

Ver. 181637

この度はグリーンブロックをご採用いただきありがとうございます。この取扱説明書はグリーンブロックの機能が効果的に発揮されるよう正しく施工していただくためのものです。よくお読みいただき目的を理解した上で施工してください。また施工中も注意点を確認しながら行ってください。

1. グリーンブロックの目的と用途

グリーンブロックは駐車場や住宅外構、河川敷などを緑化(芝生など)や単粒砕石などを充填し緑地としての景観性や透水性を保ち、急な出水や地表の極端な乾燥を防ぐため開発された製品です。

(注1) 透水性を保つため路盤は砕石などで構成していただく必要があります。

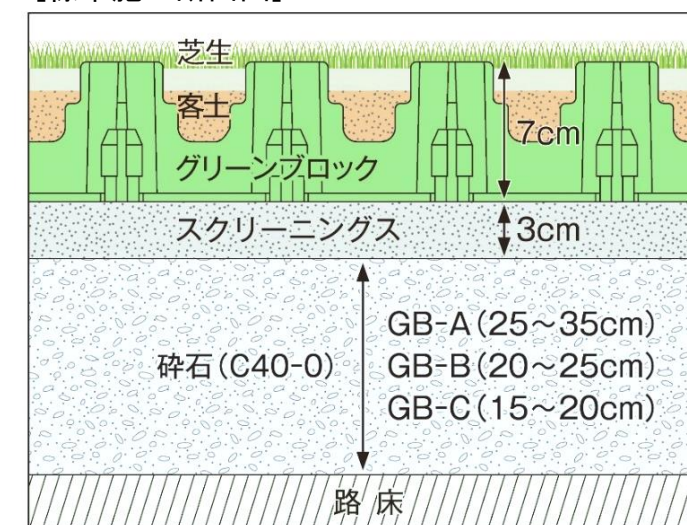
(注2) グリーンブロックは芝生の生育に重要な根・ランナー(匍匐茎)を踏圧から保護し、成長を助けるためのものです。

(注3) よい芝生地を作るためには、通常の芝生地同様に十分な水やりと施肥や芝刈りが必要です。また芝生の育成には十分な日照が必要ですので、日中ずっと駐車されるような場所には不適當です。

[グリーンブロックの種類]

型式	特徴	緑地率
GB-A	10t～25t車用	92.10%
GB-B	2t～10t車用	93.47%
GB-C	2t未満(普通車)用	92.95%

[標準施工断面図]



2. グリーンブロックの施工手順（図参照）

（1）碎石路盤は沈下や不陸のないよう、ローラー（4 t以上）で充分転圧します。

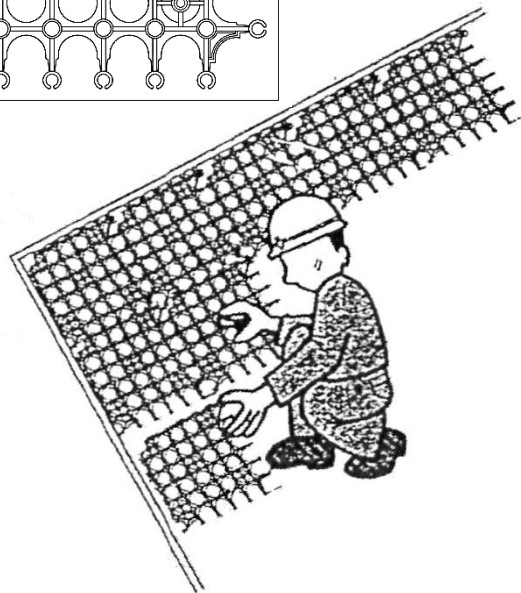
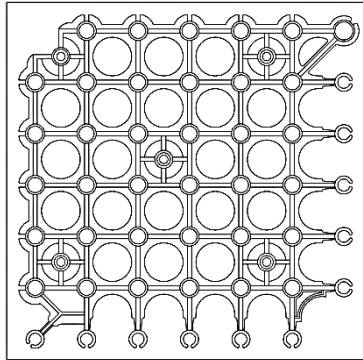


（注1）グリーンブロック単体は、設置面積（約50%）も広く、圧縮強度も十分にありますが、アスコン舗装のようにそのものに支持力はありません。荷重は直接碎石路盤に掛かります。路盤転圧が不十分だと車の繰り返し通行により碎石がなじみ、沈下する原因となります。

（2）スクリーニングスで不陸調整します。この時も充分転圧してください。

- （注1）不陸調整に砂（サウンドクッションなど）を使うと雨水などで流され、不陸や沈下の原因となりますのでお勧めできません。
- （注2）不陸調整に使うスクリーニングスは、地域によって呼称、取扱有無があるため他に、碎石ダスト、石灰ダスト、単粒7号など砂よりも粒が大きいものをお使いください。

（3）グリーンブロックをオス型ピンの上にメス型ピン部をのせて、ジョイントしながら敷き並べます。



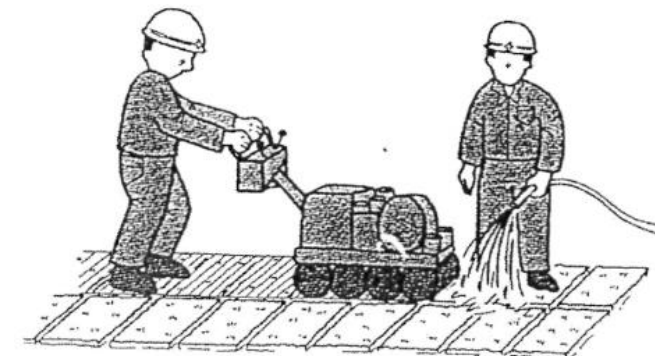
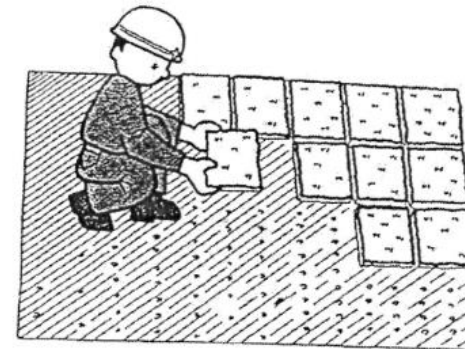
- （注1）スタートは施工地の一番長い辺の左上隅から行ってください。この場合コーナーには、図のようにグリーンブロックを配置します。
- （注2）基準となる直線を正確に出してスタートしてください。施工途中の曲がり矯正は広くなるほど困難になります。
- （注3）ジョイントは右横方向へ並べていくと常にオス型ピンの上からメス型ピンを重ねることが出来ます。図のように壇状に並べると効率的に作業できます。
- （注4）グリーンブロックのジョイントは足で踏みつけてカチッと音がするまで確実に行ってください。
- （注5）カットは電動工具をお勧めします。
- （注6）車止めの後ろなど車の荷重が掛からない場所にはグリーンブロックを設置する必要はありません。

（4）グリーンブロックの上から良質土を客土し、竹ホウキなどで掃きならします。



- （注1）土をダンプアップする時は、コンパネなどに仮置きすることで土圧による締め固まりを防ぎます。土を入れすぎると芝生の生育に悪影響を及ぼします。
- （注2）貼り芝工法の場合はブロック頭部から2cm程度（芝生の厚さが目安）低く整地します。芝生の保護を目的とするグリーンブロックの最も重要な点ですから十分注意してください。
- （注3）西洋芝などの播種工法では、ブロック頭部がわずかに隠れる程度にしてください。この場合機械施工は土が入りすぎるためお勧めできません。
- （注4）土が少なすぎるとブロック頭部が露出しゴツゴツして歩きにくいだけでなく、芝生の成長のための土量が不足します。
- （注5）粘土質の土は固まりやすく、保水性・透水性とも悪く芝生の生育に悪影響が出ます（砂質土がよい）。
- （注6）客土に土壤改良材を10～20%入れることをお勧めします。

（5）芝を貼り（芝種をまき）ローラー転圧します。



- （注1）貼り芝の場合は大判100%貼りとします。
- （注2）芝生をブロック頭部がにじむ程度まで転圧し、押し込みます。芝生が乾燥や根が混んでいる場合は、散水して芝を柔らかくしながら転圧すると、容易に押し込むことができます。
- （注3）広範囲を施工する場合は、乗用ローラーが効率よく転圧できます。
- （注4）ローラーをブロック頭部が支え、土が余り締め固まらない程度の土量であることが重要です。
- （注5）播種工法の場合はしっかり根付くまで養生してください。